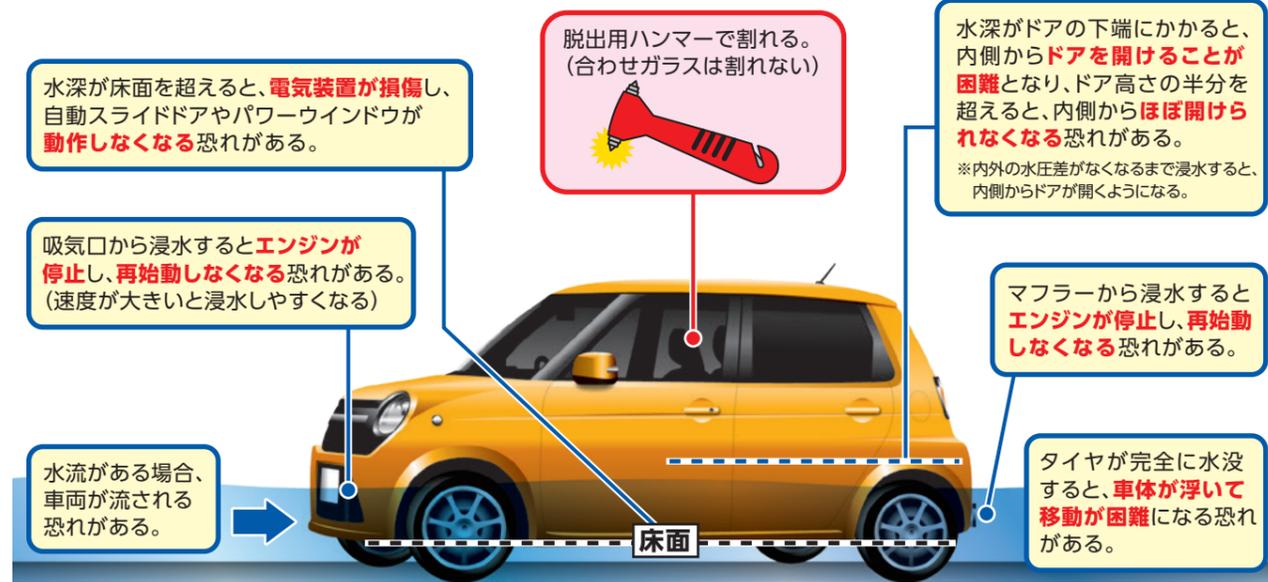


冠水した道路に注意!

参考:「自動車冠水した道路を走行する際に発生する不具合について」(国土交通省) (https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001317808.pdf)を加工して作成。

自動車は、水深が深い場所を走行できるように設計されていません。このため、大雨等の際には、早めの避難を心掛けることはもちろん、冠水した道路に安易に進入しないこと、冠水路で自動車が動かなくなった場合には早めに脱出することが重要です。

自動車が冠水した道路を走行する際に生じる不具合



もしもの時のために!
脱出用ハンマー・シートベルトカッター
を車内に常備しましょう!

脱出用ハンマー

①カッター部分でシートベルトを切る

②ハンマー部分でガラスを割る

その他の注意事項

- 水深や道路の端がわからない場所(アンダーパスなど)には進入しない。
浸水した車両は以下に注意!
- エンジンをかけない。
- 発火する恐れがあるので、バッテリーの端子(マイナス側)を外す。
※ただし、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車及びハイブリッド自動車は、高電圧のバッテリーを搭載していますので、自分で対処せず、自動車整備工場等に相談する。
- 運転可能でも電気装置等が損傷を受けている恐れがあるため、点検整備を受ける。

豆知識

電線にとまっている鳥はなぜ感電しないのか、疑問に思ったことはないでしょうか?それは鳥が我慢しているからではなく、電圧は高い方から低い方へ流れる性質を持っています。鳥はふつう1本の電線に両足でとまっていますが、その両足の間の電圧にはほとんど高低差ができないため、電気が流れることはないのです。

レンタルのニッケン

ホームページでも最新情報をお届けしています。是非ご覧ください。

検索 **メルマガ配信中!**

安全ニュースのご活用について
弊社は皆様の安全作業に関するよりよい情報をご提供するため、安全ニュースの制作・配布に取り組んでおります。下記、ご理解いただき、ご活用いただけますようお願い致します。

- 安全ニュースの一部または全部において、個人・法人を問わず、弊社および引先(各種団体など)の承諾を得ず、いかなる方法においても、営利目的にて、無断で販売・複写・複製・貸借・加工・加筆および、公衆送信(インターネットやそれに類した送信)などを利用して提供することを禁じております。
- 弊社は、本紙の内容において如何なる保証も行いません。
- 本紙内容に発生した障害および事故についても、弊社は一切責任を負いません。

安全ニュースで取り上げて欲しい題材やご意見ご要望などがございましたらeメールをご活用ください **e-mail: nikken@rental.co.jp**

安全運転アドバイス掲載中!

関係会社 エヌエスサービス株式会社では安全運転に関する情報をホームページにて掲載中。安全運転の推進活動などにお役立てください!

毎月更新

携帯ではこちらから!

http://www.nss-corp.co.jp/drive.html

レンタルのニッケン -Safety News- 安全ニュース

2020年 8月号 NO. 224

株式会社レンタルのニッケン
編集・発行 安全技術部/営業企画部
お問い合わせ TEL.03-5512-7411
発行日 2020年8月1日

特集 電気使用安全月間

目次

- 過去5年間(2015年~2019年)における感電災害の発生状況
- 電気災害防止のために注意するポイント
- 感電災害事例
- 冠水した道路に注意!

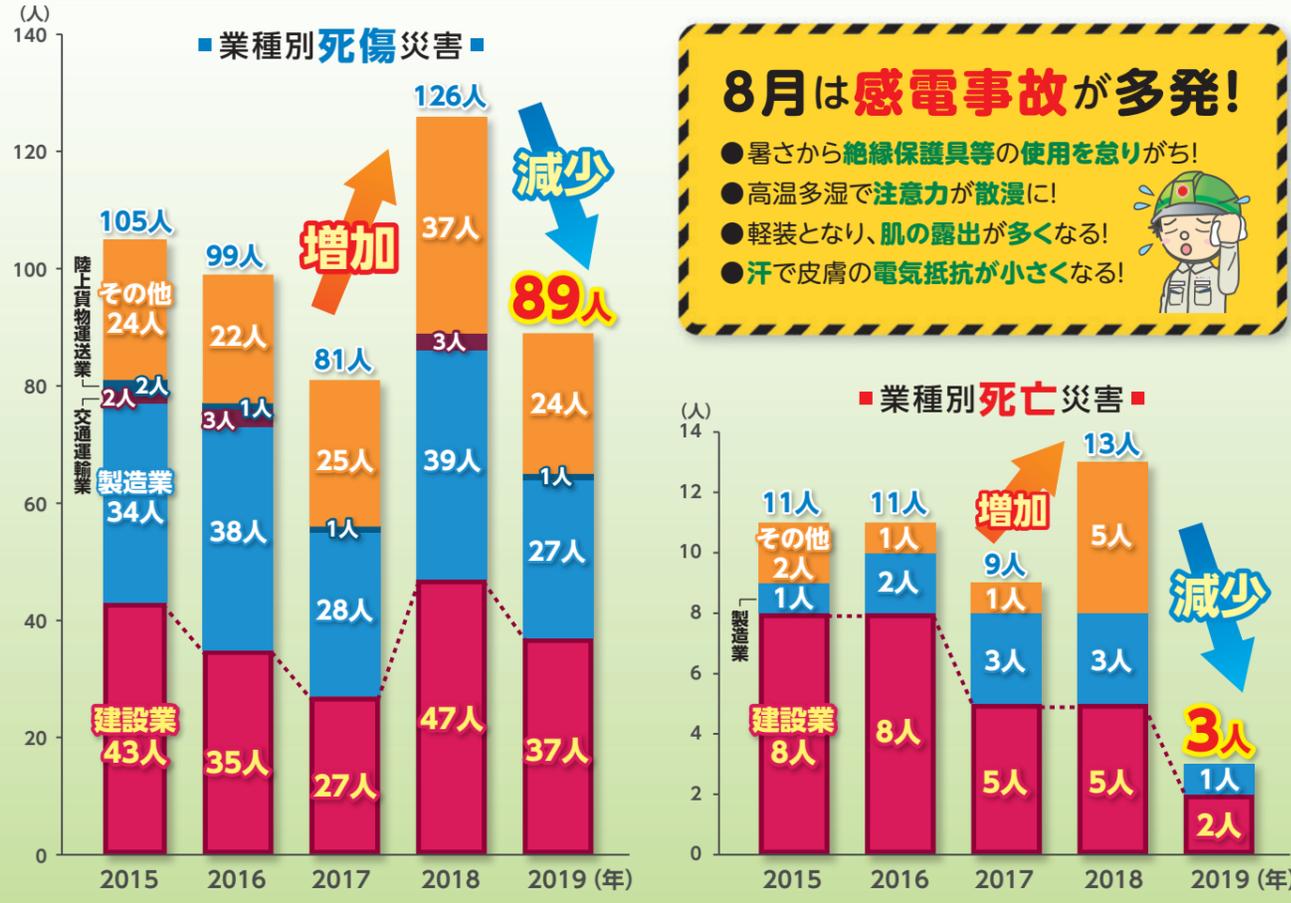
2020年9月号の予告
全国労働衛生週間(準備期間)

8月は「電気使用安全月間」

主唱:経済産業省 ■期間/8月1日~31日

8月は電気事故発生が1年のうちで最も多い季節といわれています。経済産業省では8月1日~8月31日の1ヵ月間を「電気使用安全月間」と定め、関係各団体による集中的な安全運動を展開しています。感電は死亡につながるため安全運動を通して、安全知識の向上や電気事故の防止に取り組みましょう。

過去5年間(2015年~2019年)における感電災害の発生状況



8月は感電事故が多発!

- 暑さから絶縁保護具等の使用を怠りがち!
- 高温多湿で注意力が散漫に!
- 軽装となり、肌の露出が多くなる!
- 汗で皮膚の電気抵抗が小さくなる!

今月のベからず アークを直視するべからず

溶接のアーク光を直視すると、目を負傷する恐れがあります。

注意!

- 1.紫外線は、眼にきわめて吸収されやすく、角膜の表層部に障害を与えます。
- 2.アーク光は、網膜炎を発症する可能性があります。
- 3.眼を保護するためには、作業場の環境に適する遮光保護具を使用してください。

★ ホームページにも掲載しております!是非ご覧ください。★

感電災害事例

参考:「職場のあんぜんサイト 労働災害事例」(厚生労働省) (https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SAI_FND.aspx) を加工して作成。

通電状態だと気づかず 電気ケーブル撤去作業にて感電

- ◆必ず停電状態で作業を行う。(活線作業禁止)
- ◆作業前に検電をし、停電状態を確認する。
- ◆ケーブルの末端に感電防止処理を施す。

溶接作業中に、足場を通じて 他の作業者が感電

電気が迷走!

思わぬ事故に繋がる恐れあり!

- ・他の作業員への感電災害
- ・電気機器の損傷や誤作動
- ・離れた場所での火災事故

- ◆帰線ケーブルは溶接作業を行う場所に近接させる。
- ◆足場の上で溶接作業を行う場合、足場をアースする。

クレーンのブームの先端が 高圧電線に接近し感電

- ◆送配電線からの安全な離隔距離を確認・確保する。
- ◆監視責任者を配置する。

研磨用ディスクグラインダで鉄筋を 切断中に過負荷で絶縁不良を起こし感電

- ◆機械の使用目的に合った使い方をする。
- ◆導電性の高い場所、ものに対して使用する際は感電防止用漏電遮断器を接続する。

電気災害防止のために注意するポイント

交流アーク溶接機

アーク溶接の作業には、特別教育の修了が必要です

- 自動電撃防止装置**
 - 使用前点検を行う。
 - 交流アーク溶接機は、自動電撃防止装置付を使用する。
 - 作業停止時は、溶接機の電源も必ず切る。
- 絶縁の処理を行う**
キャプタイヤケーブルの端子や接続部分は、絶縁の処理を行う。
- 絶縁用保護具を使用する**
絶縁形の溶接棒ホルダーを使用し、絶縁用手袋を使用して作業する。
- 雨中や濡れた場所、湿った場所で使用しない**
人体は電気抵抗が低く、水に濡れている場合は電流が流れやすいため感電の危険性が高くなる。
- 作業停止時等に放置しない!**
- 必ず接地(アース)をする**
アースをしないと… 電流が人体へ流れる。
アースをすると… 電流はアースへ流れる。人体に流れるのは、安全な範囲の微弱電流となる。
- アース線** 母材のアースクランプは、溶接点の近くに確実に接地する。
- ホルダー線** ホルダーの絶縁チェックを必ず行う。溶接用のキャプタイヤは、絶縁被覆の損傷、劣化が無いものを使用する。

電動工具

- 危険物のまわりでは作業しない**
使用中やスイッチの切り替え時に火花が発生するので引火性の液体・ガスの近くで使用しない。
- 定期的な点検**
定期的に漏電等ないか点検を行う
- 要注意!**
コード・プラグが破損したまま使用しない
傷んだり、水をかぶったりすると、その場所から電気が漏れて「漏電」が起きる。
- コードを巻いたまま使用しない**
コードを巻いたまま使用すると、熱を持ち、発火する恐れがあるので、コードを全て引き出して使用する。
- 必ず接地(アース)をする**
(※「回」マークが付いている二重絶縁構造の機械はアースする必要はない。)
- 雨中や濡れた場所、湿った場所で使用しない**
人体は電気抵抗が低く、水に濡れている場合は電流が流れやすいため感電の危険性が高くなる。

参考:「移動式クレーン等の送配電線類への接触による感電災害の防止対策について」(基発第759号)

クレーン・高所作業車

死亡率が極めて高く、不意の停電による社会的影響も大きいので要注意!

送配電線類に対して安全な離隔距離を保つ

●配電線・送電線からの安全距離●

送電電圧	6千6百V	2万2千V	6万6千V	15万4千V	27万5千V	50万V
労働基準局長 到達	1.2m以上	2m以上	2.2m以上	4m以上	6.4m以上	10.8m以上
電力会社の目標値	2m以上	3m以上	4m以上	5m以上	7m以上	11m以上

作業計画の事前打合せをする
事前に電力会社等と十分な作業打ち合わせをする。

適切な保護具・防具の使用
保護具・防具等の種類は次のとおりです。

- ①絶縁用保護具
(電気用ゴム手袋(低圧用と高圧用)、電気用保護帽、絶縁衣および電気用ゴム長靴等)
- ②絶縁用防具
(絶縁シート、ゴム絶縁管、がいしカバー、絶縁カバー等)
- ③活線作業用器具等
(活線作業用器具、活線作業車やその絶縁台等)

またこれらの用具等は、損傷・劣化等による感電等の労働災害を防止するため、労働安全衛生規則により6ヵ月ごとの定期自主検査及び使用前点検の実施が義務付けられています。(労働安全衛生規則 第351条・第352条)

接触防止のため、合図者を指名し、合図を行わせる

適確な作業指揮をとることができる監視責任者を配置する

関係作業員に対し、感電の危険性を十分に周知徹底させる

感電災害(電撃傷)での応急処置例

感電事故では不用意に助けに行くと、二次感電事故が発生する場合がありますので十分な注意が必要です

- 1 電源プラグを外すなどして、電気を遮断する**
救出者が感電を受けないように、ゴム手袋があれば使用する。感電者が感電したままの場合は、木棒などの電気を通さない物で、発電体(感電した電気コード等)を移動させる。
- 2 119番へ緊急連絡**
- 3 感電者の意識確認**
- 4 救急隊到着まで感電者を保温する**

意識と正常な呼吸がない
心肺蘇生法か「AED」を使用して回復を試みる。
※詳細は既刊「安全ニュース185号」をご参照ください。

意識がある 熱傷の程度を調べ以下の処置をする。

- 赤い熱傷、狭い範囲に水疱がある場合…衣類ごと冷やす
- 狭い範囲に白っぽい熱傷がある場合…きれいなガーゼやタオル等で被覆する
- 広い範囲に白っぽい熱傷、水疱がある場合…きれいなシート等で体を包む

離れてください!